

## 說苑

# 樞原神宮建國奉仕隊（三）

藤宗光

### 五、建國奉仕隊歌

樞原神宮の御修營並に神域の擴張せらるるに當り全國民の赤誠を總動員し、この聖域擴張工事に勤勞奉仕する者の奉戴すべき隊旗を制定せられるに至つたのであるが（第三圖第七圖参照）隊旗は旭日燎と輝ける中央に八咫烏を配し

ひらめく様は見る者をして建國の昔を回顧せしむ、更に奈良縣及大阪朝日新聞の後援により工事開始以來七萬を突破神武天皇の大和入りを忍ぶに誠に相應しく、樞原の原頭に

建國奉仕隊の歌

一、あゝ綠濃き樞原に  
太しくたてたる宮柱



せる盛況に鑑み、大阪朝日新聞社は賞金一千圓を投じて聖域に鍼取る者の感激と歡喜を、全國に募り、心身の鍛錬と日本精神の發揚を強張せし處、之に伴ひ八咫烏旗の下に勤勞奉仕せんとする者日に増加するに至つた。縣賞募集にかかる歌詞は去る八月三日次の如く發表せられた。

遠きみ民が畏みし

いまその上を仰ぎつゝ

久遠の榮え讃へなん

われら建國奉仕隊

二、氣は澄々 渡る朝ぼらけ

聞けよ 聖地に宿して

打ち振る歎の高鳴りを

いざ拓け行くこの地に

皇國の力培はん

われら建國奉仕隊

三、青空高く陽に映えて

旗はひらめく八咫鳥

玉なす汗をたぎらせて

おゝ湧き上る感激に

輝く明日をうち建てん

われら建國奉仕隊

去る八月七日の輝く八紘舎落成式舉行と共に無慮八千を

次に作業箇所を列舉すれば

三、綏靖天皇陵前（參拜道路）

一、外苑運動場

二、新神武天皇陵前（參拜道路）

突破せる參加隊員の前に感激の初合唱が行はれた當日は作者今井廣史も參列され一入感激に満ちてゐた、作曲は斯界の泰斗山田耕作氏の苦心作にして聖地の勤勞に奉仕するものをして無上の感激と歡喜を與へた。

この日聖地を流れる雄大のリズムは「建國奉仕隊歌」に盡きてゐた一齊に聲高々と練習する様は壯觀と云わんが誠に力強き限りであつた。

#### 六、建國奉仕隊作業道場

一日最低五百から最高七千人平均一千二百名の建國奉仕隊の作業配置は作業能率に影響することはいふまでもない。作業係に於ては圓滑なる作業を遂行せんため建國奉仕隊作業道場を次の三ヶ所に定め統監臺を設置し作業の統制及指導をなすものとす。

一、參拜道路の一部たる御料地切盛、歩車道の土工、碎石の撒布、及苑地の地上

二、機動車による土工運搬の一部

三、久米寺驛裏及新神武天皇陵驛

前の整地の一部

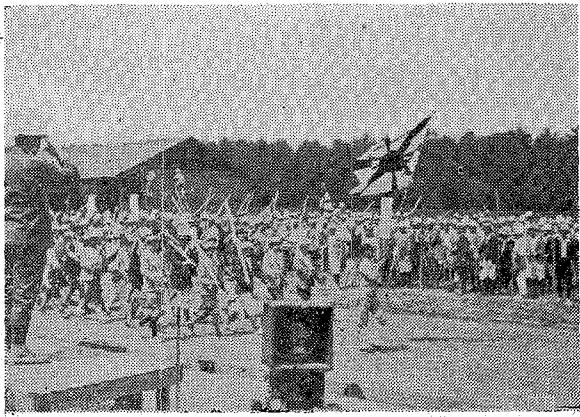
四、外苑道路、神武天皇陵道の切盛及碎石の撒布及青年道場の地

均し

以上の方針に依りて炎天を物ともせず、眞晝晴雨をも厭はず營々として勞働奉仕の念に燃へつゝ努力する姿は其の壯觀といふよりむしろ敬虔の情に堪へないものがある。

### 七、特筆すべき建國奉

#### 仕隊作業



圖

第一

奉仕隊の五百名は五月晴れの心地よ

三

き朝まだき颯爽と工事場に登場先づ

神宮參拜の後結成式を舉行分列式の

後總員緊張の内に各持場に向つて行進を行つた、この日の作業は廳員の

五百三十六名の外に五條中學、柏原

青年團、大阪工場團、産業戰士隊を

加へて千五百人と云ふ盛大振りであ

旭日八咫鳥の奉仕隊旗も燐爛と茲櫻原の宮近く建國奉仕隊結成式が壯嚴裡に舉行されてより僅か二ヶ月此の間一鉄

十三名湯茶の運搬も甲斐くしき働き振りであつた。

なりとも我が祖國のために勤勞奉仕せんと縣内は勿論遠くは半島より集りて尊き汗を流せしもの無慮七萬を超ゆると

云ふ現情である。其の中でも特筆すべき作業を述べて見るに

六月十九日の奈良縣知事を主班と

する五百名である、此の日三島奈良

縣知事を（第三圖）隊長とせる縣廳

奉仕隊の五百名は五月晴れの心地よ

き朝まだき颯爽と工事場に登場先づ

神宮參拜の後結成式を舉行分列式の

後總員緊張の内に各持場に向つて行進を行つた、この日の作業は廳員の

五百三十六名の外に五條中學、柏原

青年團、大阪工場團、産業戰士隊を

加へて千五百人と云ふ盛大振りであ

次は大阪府知事（第四圖）隊長とする三百五十名、幾日

となく降り續いた雨も、からりと晴れた一十六日の日曜の日池田大阪府知事の引率により貸切の奉仕電車で參集、

池田大阪府知事と長谷川總務部長の名コンビ

百名の盛況振りであつた。



第四圖



第五圖

出も未だ浅き七月七日の記念すべき此の日奈良縣陸軍病院の白衣の勇士は看護兵、看護婦を加へて（第五圖）二百四十三名、菅原中佐に引率されて參加、他の奉仕隊二千名と共に痛む傷も忘れて尊い勤勞を捧げたのは感激に堪へなかつた。

坂大阪市社會部長、加賀屋京都市助役、東口大朝社運動部長等であつた。

（第一圖）建國奉仕隊の作業状況を  
視察せられ（第八圖）作業

現場に足を運ばれたのであ

更に關RK放送局長

の奉仕隊は（第六圖）

田畠のニユース 演藝  
と凡そ縁遠き筋肉勞働  
に從事し限りなき歎喜  
と聖なる體験を得た。

この日七月二十四日は

奉仕人員實に五千八百に及び結成以來のレコードを樹立



現場に足を運ばれたのであるが當日は強風をまじへて横なぐりの雨に奉仕は極めて困難であつたにも拘らず雨と泥濘を征服し奉仕精神の向上に資する處があつた幸ひ午後に至り天候も漸く回復せしため、大將の視察は無事に終り、參加の隊員

に對して激勵の訓示を與へられた。

三輪大坂税關長、三輪大阪府土木部長、田  
中綱吉三馬外事課長、田中綱吉の子

誠の隊員も二手數百名に及ぶ、此の日の奉仕名コンゼは谷

に對して激勵の訓示を與へられた。

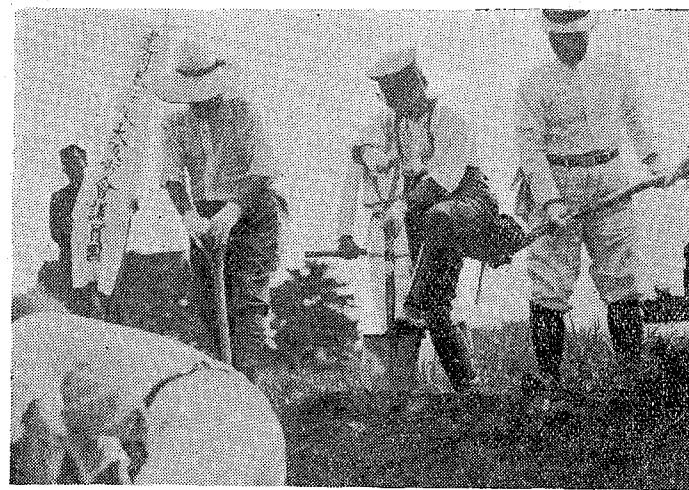
られた。

中部防衛司令官と坂間大阪市長であつた。(第八圖) 大阪市  
會議員國九十六名と共に一鉄また一鉄次いで二人相棒にて  
持籠を擣いで熱汗玉なす誠を捧げられたことは當日の參加



第七圖

泊舍)十一棟の落成式(第九圖)も舉行せられたので流汗



官令司衛防部中谷長市阪大間坂りよ右てつ向圖八第

者に多大の感銘を與へた。  
次いで八月七日は集團勤労の聖なる姿をBKより全國に  
放送せられたのであるが當日は輝く八紘舎(奉仕隊員の宿)

鍛錬の尊い神鉄を揮ふ參加隊員は奉仕作業實施以來の最高

記録を刻み實に感激的シーンを現出し無慮八千を超へるに至つたの

れた。

であるが

八紘舎落

成式終了

と共に午

前十時か

ら櫻原原

頭の壯麗

極りなき

作業實況

放送を現

場より放

送せられ

ここに赤

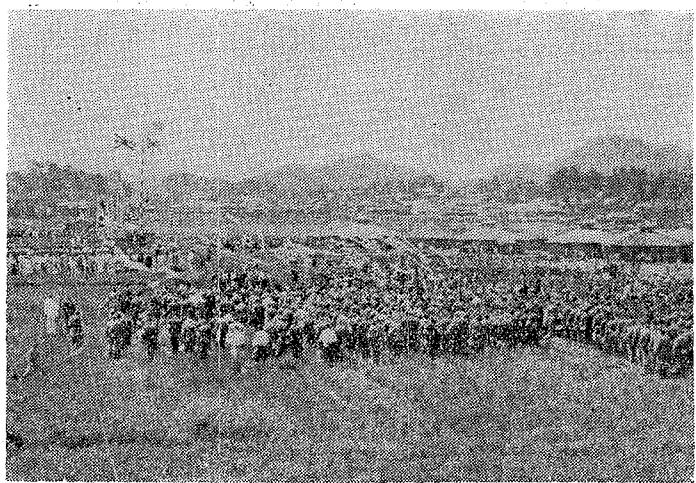
誠に燃ゆ

る當日の昧しい奉仕振りは遂一全國津々浦々に迄傳へら

を必要とし茲に聖地に其の名も昧しい八紘舎の建築となつ

之等建國奉仕隊は日を追ふて其の數十を増し残る學校等で夏季休暇を利用して奉仕する云ふ赤誠振りで是非共多數の宿泊設備

第一圖



た、此の八榎舎は先づ最初に、奈良縣の吉野工業生徒によつて二棟建築されたるを嚆矢とし大阪府都島工業、今宮、西野田兩職工學校及奈良縣畠傍中學其の他の團體の手によつて九棟を竣工せしめたのである。(第十圖)

此の八舎は全部豪華で、中央は土間にして一棟に五十名収容し得るもので、總収容人員四百五十人である。其の他建築國奉仕隊本部、大阪朝日新聞社本部救護班、炊事場、化粧室に充てられるもの二棟の建設を完了したので、今や各府縣の團體が夏季休暇を迎へ聖地に宿泊し、朝夕森嚴なる神氣に接しつゝ、聖歎を揮ひ、心身の鍛錬に勤しみつゝあるのである。

## 建國奉仕隊の人員表

十三日	一九八八人	三、二三九人
十四日	一八五人	三、四二四人
十五日	一八三人	三、六〇七人
十六日	一九一人	三、七九八人
十七日	一四〇人	三、九三八人
十八日	一〇〇人	四、〇三八人
十九日	一、三九七人	五、四三五人
二十日	六九二人	六、一二七人
二十一日	二七五人	六、四〇二人
二十二日	四六三人	六、八六五人
二十三日	一一人	七、四一八人
二十四日	五五三人	七、八六八人
二十五日	四五〇人	一〇、一二八人
二十六日	二、二六〇人	一一、一三三人
二十七日	一、〇〇五人	一一、一八三人
二十八日	五〇人	一一、一八三人
二十九日	一一人	一一、一八三人
三十日	五〇〇人	一二、六八三人
七月一日	一一、〇五一人	一二、六八三人
二日	三六八人	一三、三四〇人
三日	一、三四〇人	一三、三九一人
四日	一、三四〇人	一、三四〇人
五月一日	二、七九九人	一、三四〇人
六日	一八〇人	一、三四〇人
七日	二、六九九人	一、三四〇人
八日	一七九人	一、三四〇人
九日	一六五人	一、三四〇人
十日	二、二七五人	一、三四〇人
十一日	二、二七五人	一、三四〇人
十二日	六月八日	一、三四〇人
十三日	六月九日	一、三四〇人
十四日	六月十日	一、三四〇人

三日	二、三二四人	一、五、七一五人
四日	七四人	一、五、七八九人
五日	三四〇人	一、六、一二九人
六日	八九七人	一、七、〇二六人
七日	二、三三七人	一、九、二六三人
八日	一、〇五〇人	二〇、三一三人
九日	一、六一三人	二一、九二六人
十日	二、七八九人	二四、七一五人
十一日	一、一三四人	二五、八四九人
十二日	八一四人	二六、六六三人
十三日	七五二人	二七、四一五人
十四日	七三二人	二八、一三七人
十五日	一、五六〇人	二九、六九七人
十六日	一、六九七人	三一、三九四人
十七日	一、九五七人	三三、三五一人
十八日	一、〇五七人	三四、四〇八人
十九日	一五〇人	三四、五五八人
二十日	四二八人	三四、九八六人
二十一日	一、七〇〇人	三六、六八六人
二十二日	三、〇五七人	三九、七四三人
八月		
一日	二十九日	二十三日
二日	三十日	二十四日
三日	三十一日	二十五日
四日	二日	二十六日
五日	一日	二十七日
六日	三日	二十八日
七日	四日	二十九日
三		
四		
五		
六		
七		
八		
九		
十		
十一		
十二		
十三		
十四		
十五		
十六		
十七		
十八		
十九		
二十		
二十一		
二十二		

労働奉仕運動は公益事業を遂行し乍ら肉體と精神との鍛錬が目的であるといふことを忘れてはならぬ。従つて經濟

## 八、結論

論

より精神の訓練が重要ではあるが、それとて全然不生産的なものであつてはならぬと同時に筋肉労働者の職業市場と抵觸せぬところが肝要である。

ドイツが此の労働奉仕に主力を集中し始めたのは歐洲大戰亂後であつて男子は十七歳より二十一歳まで必ず労働奉仕團に加入し六ヶ月間の勤労を受け夏季は午前五時冬季六時に起床し、毎日六時間の労働に服する義務がある。餘暇は教養の學科たるスポーツに充て共同生活は簡素にし團體訓練は飽くまで嚴正に統制ある規律の下に活動しつゝある状態である。ドイツ

しつゝある。



ドイツの労働奉仕制度は土に還れの趣旨の下に青年男女の都會集中を戒め勞資階級の対立を打破するため労働の尊重を明にし肉體的労働を體驗せしめ都會の青年を農村に送り農村の青年と親しく交友せしめ智的教養への誤つたる觀念を匡正しつゝあるのは一大見識である。

我國の青少年學生が日曜祭日を無意に映畫館に喫茶店に遊びつゝある現狀に照しあはせ大いに反省の必要がある我國では古來武士道の精神があり忠孝と相俟つて獻身では労働尊重の氣風を養生し共同一致の行動をなし民族的指針を作興、身體と靈感とを體得——民精神であり日支事變に當り其の精華を遺憾なく發揮して

ゐるがため、この國民的協力の精神を尙強化するため青年層、殊に智識階級に呼びかけ集團的神訓練が必要なることは云ふまでもない。

我國の勞働奉仕の觀念は日支事變以來我が朝野の關心を促し勤労奉仕と集團勤行の名目の下に現に

各地方團體等により唱導せられ、

宮崎縣知事提唱の勤労倍加運動は祖國振興隊として結成せられ全縣下を風靡し、更に三重縣の勤労報國運動大陸に進出する目的を以て満蒙開拓青少年義勇軍が組織せられ其の他色々の團體各地方に設けられ、殊に皇紀二千六百年を記念とする櫛原神宮境域並に畠傍山東

北陵々域擴張の達成のため建國奉仕隊結成せられ爾來僅か



に六十日にして參加人員無慮八萬、奈良縣、大阪府、京都府和歌山縣、島根縣遠くは朝鮮半島より聖地に一鉄を捧げんとする現況にして其の奉仕の赤誠と、功績は誠に慶賀に堪へぬ、完成までに百萬人、本年度内に五十萬の奉仕隊員を動員する見込みである。

奉仕隊員に對する器具一萬人分が準備せられ之は殆んど大部分寄附によるものであるが其の他湯茶の接待休憩場の施設を爲すのみにて奉仕隊員は總て手辨當である。功績として

一、櫛原神宮の存在を認識せしむ

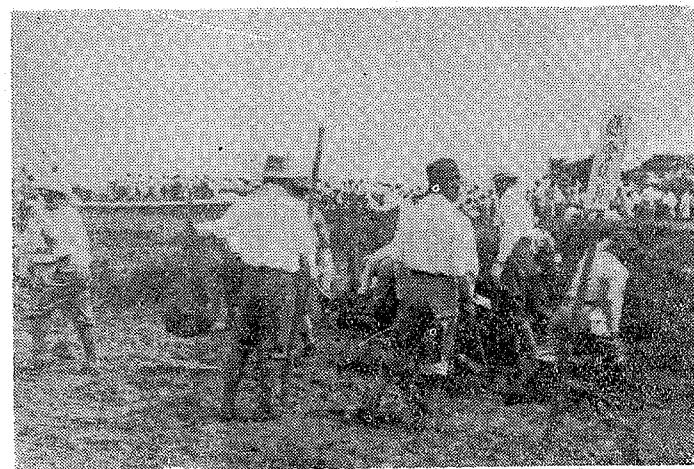
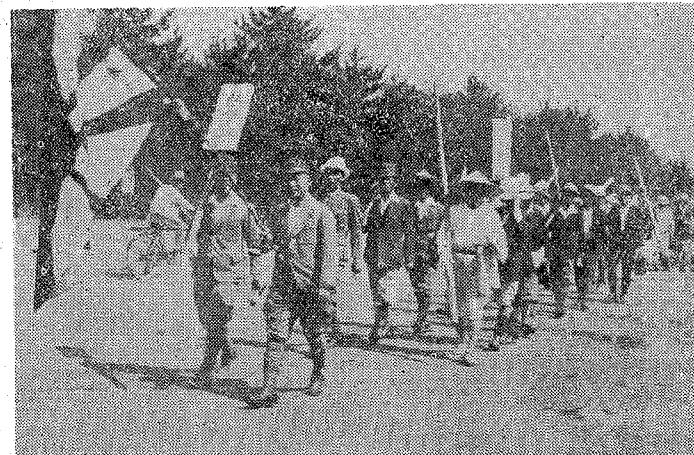
ると共に精神指導

二、人夫拂底による事業の進促  
三、集團的行動の訓練

作業能率は各小隊長の指揮に影響せることが特に痛感さ

れた。

櫛原神宮の  
作業道場は南  
北三千米東西  
六百米の區域  
にして其の面  
積の廣大と一  
般青年團學生  
が勞働する位  
置に適し特に  
神武天皇の聖  
地を偲び作業  
を實施するが  
如き情景は天  
下に其の例な  
く然かも長日



八月七日奈良縣良々會議員奉仕の議會奉仕作業

月に亘り毎日勤労奉仕するが如きは其の特徴である。

せる建國奉仕隊をして國家の柱名たらしめんことを」終

即ち櫛原神宮を中心とする建國奉仕隊による勞働奉仕運動は將來我

が國の少年團及青年團の團體が各

地方毎に別個に結成せ

られ其綱領

や服裝も統

制され法制

化する重要

試驗場たる

を信じて疑

はず、願ば

燃たる八咫

鳥旗を奉戴